

A3パネルセッション
「社会的企業への資金供給と休眠
預金の活用：韓国の現状から」

日本NPO学会 第17回年次大会(武蔵大学)

2015年3月14日(土) 10:00-11:30

パネリスト

佐藤 順子(佛教大学福祉教育開発センター)

上原 優子(立命館アジア太平洋大学国際経営学部)

向田 映子(女性・市民コミュニティバンク)

小関 隆志(明治大学経営学部)＝コーディネーター

パネルセッションのねらいと論点

- 韓国の社会的企業育成支援の一つとして、マイクロクレジットや社会的金融による資金提供が挙げられる。
- マイクロクレジットの財源として休眠預金・休眠保険が使われている。
- 日本でも休眠預金を活用して社会的インパクト投資を進めようとする動きが活発化しており、韓国の事例が参考になるのではないか。
- 韓国の事例は、イギリスの事例に比べて、あまり日本に紹介されてこなかった。
- 本パネルのパネリストは2014年8－9月に韓国を訪問して現地調査を行った(調査結果の詳細は別紙配布の冊子を参照)。その結果をもとに、フロア参加者の皆様とともに、日本への示唆を考えたい。

パネルセッションの進行(目安)

- 10:00－10:05 趣旨説明、パネリストの紹介
- 10:05－11:05 パネリストによる問題提起(@15分×4名)
(小関・上原・佐藤・向田)
- 11:05－11:15 パネリスト間での意見交換
- 11:15－11:25 フロア参加者との質疑
- 11:25－11:30 まとめ

配布冊子について

- 参加者の皆様に『急成長する韓国マイクロファイナンス：歴史的背景と最新情勢 –2014年度調査報告書–』を配布させていただきます。
- 本パネルのパネリストが2014年8–9月に行った共同調査研究の成果です。本パネルセッションの参考資料としてご参照ください。
- 本報告書(PDF版)は、下記サイトに公開しています。

明治大学 小関隆志研究室

<http://www.kisc.meiji.ac.jp/~koseki/wakateA.html>

ご参加いただき、ありがとうございました

- ご意見・ご質問などがありましたら、下記へご連絡ください。

明治大学経営学部 小関隆志 koseki@meiji.ac.jp

〒101-8301 千代田区神田駿河台1-1